

主にある喜び

ピリピ書3:1

香港JCF

2010年4月11日

I 神様を喜ぶ

1. ピリピ書の主題:「獄中での主にある喜び」
2. 神と神の国を喜ぶ←神がキリストの十字架を通して私を喜んで下さっている、私には神の国が待っている、死すらも益である
3. 父なる神の愛←創1-31「見よ、それは非常に良かった」ルカ3:22「あなたは、私の愛する子、私はあなたを喜ぶ」

10

11

II 自分自身、状況、隣人を喜ぶ

1. 自分自身に捉われず、喜び、神様に明け渡す→欠点すらも、感謝に
2. 状況に左右されない、主を第1次環境とする状況の中で、主を喜び、自分自身が状況の主となる→キリストにあって状況を支配する
3. 人との間に主を置く、共に祝福されることを祈る→喜びと悲しみを共にする:人々に真に仕える

12

III み言の適用

1. あなたが喜べる時はどんな時ですか? 喜べない時はどんな時ですか? 神様を、が、で
2. あなたの喜びは、現実や自分自身からの逃避や固執によるものですか? 現実や自分自身を神様に明渡すことによるものですか? → I テサ16-18、ロマ12:15による吟味
3. 今週、私たちは主にある深い喜びに活かされるように祈ろう

13